

意のままに排泄ができる喜び

高柳和江 (日本医科大学医療管理学教室准教授 / 癒しのトイレ研究会会長)

今回の癒しのトイレ研究会会誌は、リハビリテーションがサブテーマだ。段階の世代が定年を迎え、どんどん高齢社会になる。65歳以上の人口が50%を超えると、もう高齢社会とは呼ばず、高齢者がいるのが当たり前の「普通の社会」になる。高齢者が生活しやすい環境をつくっておくのは、当たり前のことである。わざわざリハビリといわなくても、すべてが、高齢者も障害者も住みやすい街、トイレ対応が当然だ。車いすトイレだけでなく、すべての個室が十分大きなこと、部屋の床がぬれていないこと、ゴキブリが飛び出してこないことなど、基本だ。幸せに排泄するための大きな視点を持ってほしい。

これには、生理的欲求が満たされなくてはならない。食道ガンで食道が細くなったために食事ができない人に胃瘻(胃に管をつける)手術を行って、その管から流動食を入れて、体力維持をして、延命をする。でも、口から食事をするほうが、どんなに幸せか。現在では、食道にあるガンの真中に導管と呼ばれるパイプを通して、そのパイプの太さの食事をさせる。直接に口からものを食べることができるというのは、胃に入った管から流動食を入れるよりも、もっと喜びが大きい。

排便も同じだ。自然に肛門から排泄することは、この上ない幸せなことだ。私はもともと小児外科医で、多くの患者さんを手術してきた。直腸肛門障害や他の病気のために、排便コントロールが大変な子どもも多く、胸を痛めていた。帰国してから、成人で、脊髄損傷で車いす生活になった人の苦勞を知った。

人間の尊厳は、生理的な排便をすることによって守られる。足が動かなくなったのは良い。外にいけなくても良い。だけど排便だけ何とかしてくれ……というのが彼らの気持ちだった。頑固な便秘やそれにとまなう失禁。2～3日に一度、下剤を飲み、浣腸をして、さらに摘便という方法で何時間もかかって排便をする。リハビリ病棟では看護師に摘便をしてもらい、大量の便をビニール袋に入れて見せられる、「昨日の夕食を覚えている？あれを食べたら、こんな便になるの。だから、食べたらいかんよ」などと、食事の指導を受ける。これが看護師の療養上の世話指導というものなのだそう。

日本では予防と、後始末でしかなく、便秘は死なないからと医療の対象ではなかった。でも、患者さんは失禁が心配で外出もできない。外出も万一を考えて、タクシーを使い、費用も大変だ。

米国では逆流防止弁つき管を盲腸の一部に埋め込むという手術をする。2日に一度、グリセリンを盲腸から注



入する。腸の蠕動運動にそって、大腸が動いて、便を出す。痛くなく、不快感もなく、早い人では5分間で便意が起こり、15分で大腸すべての便を出すことが可能。ごく普通に肛門から排便でき、問題もない。下腹部に小さな管を埋めこむだけの手術で盲腸ポートという。

ラジオ深夜便で私が、この手術の話をしたところ多くの反響があった。排便に関して人にいえずにどのように苦勞しておられるかをお聞きして涙が出た。医療は命を助けるためだけではなく、患者さんの尊厳を高めるために、患者さんを幸せにするために使うべきものだ。

青梅市立総合病院で、この手術ができるようになったのは2002年のことだ。それ以来100人以上の患者さんがこの手術を受けて幸せになっている。「10年ぶりに木綿のパンツがはけた」「8年ぶりにお花見に行きました」「船で魚釣りにいったんです」次々にうれしい報告が届いた。

患者さんから、いろいろアイデアもいただいた。トイレに関して長年苦勞して、一言ある方々ばかりだ。患者さんからの改善点をあげてみよう。

1. 照明を明るく
2. 便座と便器のジョイントがずれる。
3. 穴が大きすぎて、おしりがはいりこむ
4. 便座がない障害者用トイレがある
5. 寝たままのトイレ床面に長い便が着いたりする
6. 水流がきつくて、尻がぬれる
7. 手すりをつけても力の入れ具合が患者によって違う。
8. 左手で使えるもの、腕が乗って手すりの間に入りこまない
9. 手すりに吸着力があるものがよい。塗装に関係するのだろうか

苦勞しておられることがよくわかる。でも、みんな、各論だ。私は、もっと、根本的に、総論での改善点がほしい。どのトイレも、車いす用のトイレをつけることを原則にするべきである。さらにいえば、どのトイレも、階段を2～3段上がってから入ることになっているという構造を改めることを、である。車いす用トイレがあっても、その前に階段があれば、ひとりでは入れない。

スウェーデンには障害者の権利章典がない。すべての法律の最後に、障害者の場合はという条項がついているので、わざわざ障害者の権利章典をつくる必要がないというのだ。日本も、来たる「高齢」とはわざわざよばなくてもよい「[高齢]社会」を迎えるために、今から、総論を論議しようではありませんか。社会を変えていこうではありませんか。行動が求められているのだ。